みぬま通信 第86号
2021年04月

見沼たんぼくらぶのイベント

里芋・八つ頭の収穫祭に参加

私たち「社会福祉法人ななくさ 多機能型大谷事業所」はさいたま市見沼区大谷にある障害者施設です。当事業所では、生産活動、職場の開拓、体験、定着など就労に関する訓練、支援を提供し企業就労を目指す就労移行支援事業と、働く生活を通じて将来の自立生活に必要な知識や技術の育成、自立への意欲向上を図る就労継続支援Ｂ型事業がある多機能型施設です。

２０２０年１１月１８日(水)に見沼たんぼクラブのイベントである里芋・八つ頭の収穫を体験させて頂きました。今回は新型コロナウイルスの影響もあり参加する利用者さんの人数を減らして参加しました。

今回の里芋と八つ頭は前回よりも一つ一つが大きく、「新型コロナに負けるもんか！！」と言わんばかりに成長していて、掘った時にはびっくりし、嬉しい気持ちになりました。今年度はコロナの影響により、施設行事も縮小や中止になりましたので、今回の収穫祭では見沼たんぼクラブの皆様と共に楽しいひと時を過ごさせていただきました。

収穫した里芋などは例年、事業所内の給食やイベント(クリスマス会、成人を祝う会)などに使用していました。しかし、今年は、各ご家庭に持ち帰って頂きました。と言いますのは、今年は行事内容の変更がございましたので、それぞれのご家庭にお渡しさせて頂きました次第です。

私は、すいとんや里芋のココロッケにして食べました。利用者さんも、豚汁、煮物など色々な料理に使ったようです。また八つ頭は、お正月の料理として使用をした方もいました。自分で収穫した里芋や八つ頭の料理は、いつもと違った美味しさを感じることができました。

貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。

(社会福祉法人ななくさ 多機能型大谷事業所　鈴木伸英)

見沼たんぼくらぶのイベント

2/7　見沼塾「見沼自然公園の野鳥観察」

小峯　昇

今年は寒い日が続きますが，今日は風もなく穏やかな絶好の観察会日和です。14 名の方が参加され野鳥観察が始まりました。

芝生広場のアキニレの梢にカワラヒワがいます。カワラヒワは翼のあるアキニレの種子が大好物で，先を争うように食べていました。

池には、今年もカモが沢山来ています。人を恐れることなく，逆に近づいてきます。餌やりは禁止されているのですが，そっと餌を撒く人がまだ

いるようですね。珍しいトモエガモが今年も見られました。

他に，ヒドリガモ，オナガガモ，オオバン，カルガモ，コガモ，カイツブリがいました。奥のヨシの中ではアオサギはまどろんでいます。

園路沿いのロウバイは盛りを過ぎていましたが，ほんのりと春の香りが漂ってきます。

自然公園を出て南側の外周を進んでいると，「上空に猛禽！」という声，ゆっくり輪を描きながら何か上昇しています。写真に撮り拡大すると、ハイタカのようです。

再び，公園に入り木陰の道を進むと，シジュウカラ，エナガ，コゲラが忙しなく動いていました。「ニーニー」とやや鼻が詰まったような声のヤマガラも出てきて，目の前の細枝にとまり我々を出迎えてくれました。

シジュウカラがクビキリギスと戦って？い

ます。クビキリギスは成虫越冬する昆虫です。シジュカラに見つかり餌にされそうなので必死に逃げ回っていました。かなり大きい虫なのでシジュウカラは手こずっていました。どうなるのか一

同手に汗握ってみていましたが，最後はジュウガラがあきらめて飛んでいきました。

短時間ではありましたが，鳥との楽しい出会いがありました。来年も是非ご参加下さい。

観察された鳥　アオサギ、アオジ、ウグイス、エナガ、オオバン、オナガガモ，カケス，カルガモ、カイツブリ，カワラヒワ、キジバト、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、シメ、シロハラ，スズメ、ツグミ、トモエガモ，ハイタカ，ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒドリガモ、ヒヨドリ、マガモ，ムクドリ、メジロ、モズ，ヤマガラ　30 種。

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

芝川低地の水環境調査から

ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンドでは隔月で表題活動を芝川沿いの鷲山橋北側から境橋までの約２㎞の左岸の５箇所と右岸の大宮第二公園西側の見沼代用水の水車プールを採水対象として、現在水質検査と採水地点周辺の開花中の野草調査を併せて実施しています。その地点は流水域として芝川境橋本流・上記見沼代用水、湧水では鷲山橋北側、池沼域の芝川左岸第七調節池・大和田緑地公園谷地沼沢、生活排水は芝川石橋南の排水口となります。採水作業は調査員（通常 5～6 名）が担当地点で実施し、それ以外に気温・水温を測定し、併せてその周辺の開花中の野草調査をします。それらを大和田緑地公園屋外デスクに 10 時までに持ち寄り、水質検査となります。検査後はその結果を検討し合い異常があれば再調査を実施します。その調査結果は会報「みちくさ」に掲載しています。

水質検査はパックテスト（簡単な化学的分析法）による７項目が対象です。その検査項目はpH（水素イオン濃度）・ＤＯ（溶存酸素）・ＣＯＤ（化学的酸素要求量）・NO_2（亜硝酸）・NH_4（アンモニウム）・PO_4（燐酸）・Ｚｎ（亜鉛）です。ＤＯ以下の単位はｐｐｍ（百万分の１）であります。pHは中性（7）・酸性（7 未満～０）・アルカリ性（7 超～14）を測定します。ＤＯは水中に溶存の酸素を測定しますので高い方が良いとされます。ＣＯＤは水中の有機質が酸素を要求する量を測定するので低位が良いとされます。NO_2・NH_4は有機汚染の調査であり、また、PO_4・Ｚｎは無機汚染調査で利用し共に低位が良いとされます。

それぞれの測定結果を述べると、pHに関して、湧水は酸性傾向で、流水域はコンクリート護岸などの影響でアルカリ性の傾向が現れます。生活排水は中性又はアルカリ性を示しますが、様々な水質が混入した複合体としての水質だろうと思われます。止水域の第七調節池の場合は藻類や植物性プランクトンが生息しているため、昼間は炭酸同化作用の結果アルカリ化します。大和田緑地公園谷地沼沢は湧水や井戸水に因ることが多いため弱酸性が殆どです。

ＤＯは湧水や生活排水が他に比べて低位です。ＣＯＤは高い値の方が有機質に汚染されていることを示します。最も高い値は生活排水ですが、以前と比較すると、浄化施設などの普及によって改善されて来ています。これ以外の地点は程度の差はあるが、水生生物が生息するに足りる水準を有しており、水鳥たちも芝川へはかなり飛来してきています。有機汚染に関してNO_2・NH_4は生活排水について以前から高い水準でありましたが、低下傾向にあります。

第七調節池では生活排水の流れ込みがないため、その他の地点と同様に、測定値は０又はコンマ以下の水準が維持されています。無機汚染に関してPO_4・Ｚｎが関係しますが、特に、生活排水ではPO_4が他の地点に比較して高く現れます。これは洗剤などに含まれるPO_4の流出によるものですが、浄化設備の普及による改善が指摘されています。だが、他地点に比較すると依然として高い傾向値です。ＺｎはＰＯ$_4$に比較すると低位ですが、０値の出た後でも再びコンマ以下の値が見られます。川や池で自転車やオートバイが投棄され引き上げられているのを見掛けることがありますが、それらの影響によるものもあるでしょう。何れにしても、以前に比べて改善されていることは判りますが、より安全な水環境が持続するため人々の身の回りの水環境に対する心掛けが大切です。

採水地点周辺の開花中の野草の調査結果を簡単に述べます。平成 30 年～令和 2 年の 3 年間をまとめますと、45 科 160 種の野草が採水地点周辺に花を咲かせています。なお、この地域では除草が実施されるため、季節外れに咲く株を持った個体も含まれています。調査対象になった野草は特殊な種ではなく何処にでも出会うような種が殆どです。科のベスト 5 はキク科（26 種）・イネ科（25 種）・タデ科（10 種）・カヤツリグサ科（9 種）・アブラナ科（7 種）であり、この 5 科で全体の 48％を占めます。また、帰化種も多く観察できましたが 19 科 53 種と全体の 33％を占めています。

（若野　忠男記）

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説　八木一郎

あやめ園（大宮第２公園）

公園管理棟の東側にある「あやめ園」には、５月頃から３枚の大きな咢弁と内側の３枚の細く直立した花弁から成る花が咲く。紫や藍色が多いが白や黄色の花も交じり、カメラマンや散策に訪れる家族連れの人々が木道から楽しむ姿が見られる。「あやめ」は「菖蒲」とも書き端午の節句に引用される「菖蒲・しょうぶ」と全く同字であり、「あやめ」はアヤメ科で乾燥の地質を好み、「菖蒲」は葉の形は似てはいても水辺を好むサトイモ科で別種。

さいたま市旧坂東家住宅・囲炉裏

坂東家は紀州加田村出身で、今から３５０年前に江戸に出て、加田屋の屋号で事業を興し、次いで見沼を開発した先覚者。この屋敷は 1857 年（安政４年）建てられ、土間に接して暖を取り或いは食事の場となるなど憩いの囲炉裏が設けられている。

1991 年（平成 3 年）から市の有形文化財の指定を機に火気使用が制限されて、現在は月に数回の虫よけのための使用のみが行われているが、昔の見沼地域の四季折々の慣習を学ぶ事が出来る（この作品は２００８年３月１１日にスケッチ実施）。

大宮第３公園の「河川低地景観」

「芝川新橋バス停留所」から芝川右岸に沿って北へ３００ｍ、この付近は大宮台地と芝川の境（斜面地）であることから、度々の豪雨や川の増水によりその斜面が削られて土表が露出している所（画面で左方の赤色部分）が多く残る。

この露出した地層からは台地にしみ込んだ雨水がにじみ出て、更にその下には「ハケ」と呼ばれる流れが自然に出来ている。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

画題　アサザ咲く池
作者　福内　登茂栄

氷川女体神社前に広がる見沼氷川公園の池に群生し、一面に咲くアサザです。

アサザは早朝に咲き、夕方には閉じる短命な一日花ですが、ハート形の葉に黄色に五弁花が可憐な「しとやか」（花ことば）な花です。

見沼たんぼ探訪記

残念だった氷川神社の豆まき

毎年、武蔵一宮氷川神社の「節分祭」には、東京から有名力士などが来て「豆まき」を行う様子が、新聞等に大きく報道される。

氷川神社の豆まきは、通常、２月３日に行われるが、今年（２０２１）は、２月２日という。節分の日が３日でないのは昭和５９年（１９８４）２月４日以来３７年振りであり、２日になるのは、明治３０年（１８９７年）以来１２４年振りとの事だ。

神社に着くと、残念ながら豆まきは「中止」であった。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言が発令中であり、豆まきの行事は取止めとなったのだった。

「節分」の本来の意味は、新春に訪れてくる神様を迎えるための物忌みとされており、神社や家庭では主に悪霊邪気を防ぐために、下記の呪術（じゅじゅつ）が行われる。

豆まき：「福は内、鬼は外」などと言いながら五穀（豆、米、麦等）をばらまき、お祓いやお清めをする

焼嗅（やいか）がし：「ヒイラギの枝先に焼いたイワシの頭を付けたもの」を玄関などに刺して、邪霊の入って来ることを防ぐ

明日の２月３日は立春となり、暦の上での新しい年がスタートする。この為か、お参りに来た皆さんの顔の表情は、微笑みを浮かべ晴れやかさで一杯であった。

（召田　起雄記）

五斗蒔橋の大蛇　（民話から）

緑区上野田の小学校脇の用水には、昔、土橋（五斗蒔橋）が架けられ、この辺りには以下に記述の民話が言い伝えられてきました。

ある日、おばあさんが田圃を見回りに行くと、この橋の下で、「大蛇」がイビキをかいて昼寝をしていたのです。おばあさんはびっくりして大慌てで家に戻り、近隣の人たちにこの事を伝えました。

話を聞いた悪ガキのゴンタは、「これは大変、退治しなければ・・・」とばかりに弓矢を持って、友達のゴンジを誘い橋の下に行きました。ゴンジは、大蛇を覗き込むと急に怖くなり、「大蛇に食われそうだ、家に戻る」と泣き出す始末です。「ここまで来て戻りでもしたら『弱虫、毛虫・・・などと馬鹿にされる』大蛇を退治するぞ」と、ゴンタはゴンジに命令するのでした。

２人は弓矢の準備を終え、呼吸を揃えて矢を射ると、見事に大蛇の頭に命中。大蛇は巨体をのた

うち回りながら、２人に向かって飛び掛かってくるのでした。が、最後には大蛇の息は途絶え、川の中に流されてしまいました。

数日が過ぎたある日、２人の目が急にはれ上がって来、見えなくなってしまったのです。村の医者に診てもらうと「これは病気ではない。何かの『タタリ』に違いない」というのです。

２人は早速、殺した大蛇に対し供養をすると、悪ガキたちの目は次第に快方に向かい、ついに元通り見えるようになったということです。

（召田　起雄記）

見沼たんぼの仲間たちNo.５７

＜見沼たんぼの文化遺産・
藁塚「フナノ」を後世に引き継ぐために＞

見沼たんぼの文化遺産・フナノ保存会

「瑞穂の国」と言われた日本、稲作はかつて全国どこでも行われていました。そして稲刈り後の藁は筵やかご、草履、縄などの生活用具はもちろん、牛や馬の飼料や寝床に、収穫した野菜の入れ物として、正月飾りの注連縄や神事に、また森が少ない見沼地域では枝木や落ち葉の代わりに藁は貴重な燃料として、そして最後は田や畑の肥料となり、日々の暮らしに無くてはならないものとして活用されていました。

しかし「藁」は傷みやすいため「藁」を保存するために各地ではノロシ、ノウ、ボッチ、等と呼ばれた「藁塚」が作られていたそうです。そして見沼地域では「フナノ」と呼ばれた藁塚が作られていたことを、２００７年埼玉県立近代美術館２５周年記念展に見沼ファーム２１が見沼たんぼの藁を提供したことがきっかけとなり知りました。昭和３０年頃までは作られていたそうですが、その後米の減反政策や、農機具の機械化、プラスティック製品の普及などで、藁を取り巻く状況が大きく変化する中で藁塚も姿を消してしまったのでした。

最初は「フナノ」について博物館などで聞いても文献は見当たらず、やっと、作ったことがあるという加田屋新田の農家さんが見つかり、その人の指導を受けて２００８年秋、５０年ぶりに復元。その大きさといい、特徴的は形状といい、見事な佇まいは見沼田圃の秋にふさわし景観と、多くの人々の関心を呼ぶものとなりました。

その後フナノ制作には、見沼たんぼで活動する団体の皆さんや大学生、農家さんの参加があり、ぜひ今後も貴重な地域の文化遺産として保存し、

継承していこうと、保存会を結成。隔年毎に制作を行っています（２０２１年は制作年。但しコロナ感染状況で変更あり）。

「稲」は米だけでなく，藁、籾、糠、そして根も全て捨てることなく活用されるリサイクルの優等生、循環型社会や自然との共生のヒントを伝え、そして「フナノ」は両脇に飾り付けられた「獅子がしら」が「豊作」「家内安全」等、人びとの日々の祈りがこめられていると思われてなりません。

今も残る農民の伝え―「藁はお米の親だもの」「藁一本も無駄にするな」―　米が日本人の食を支え、水田が環境保全に不可欠な場であることを決して見失ってはならない、そのシンボルとして、また現代の環境問題などを考える機会になればと願っています。

フナノ保存会会長　島田由美子

写真添付説明

フナノの規模（これまでの例　より）

藁の量：約１０ｔ高さ３ｍ、縦５ｍ、横２．５ｍ

制作場所：加田屋新田（加田屋１丁目）

見沼たんぼを支える農家さん

さいたヨーロッパ野菜研究会」
飯田秀樹さん

見沼区笹丸と岩槻区慈恩寺であわせて約 5 反 5 畝の畑で野菜を栽培している飯田秀樹さん。ここ数年注目を集めている「さいたまヨーロッパ野菜研究会」のメンバーでもあります。

2013 年、イタリアンやフレンチのレストランが多いさいたま市で、新鮮な本場の野菜を使いたいというシェフ達の要望に応えて、市内の若手農家、卸・種苗会社、飲食店などが協力してヨーロッパ野菜の地産地消に取り組む「さいたまヨーロッパ野菜研究会」が誕生しました。

現在 13 軒の農家が年間約 70 種類の野菜を出荷、取り扱うレストランも 1200 軒を超えるまでになり、数々の賞も受賞しています。

飯田さんは大宮区で農業とは無縁の環境で育ちましたが、農業に対して興味をもったのは中学時代の総合学習での「職業について調べよう」という授業がきっかけだったそうです。

食料自給率や中国から輸入した冷凍餃子から検出された農薬が問題となっていた頃で、身近な「食」に対する危機感から農業をテーマに選び、一年間取り組みました。

（ 飯田秀樹さん）

その後、大学の農学部に進学。農業と地域の結びつきに魅力を感じ、卒業後は鹿児島の農業法人に就職。3 年間、地方の産地で大規模な野菜栽培の経験を積みます。その後、これまでとは違う形の農業、例えば個人経営の都市農業のような農業を経験したいと思っていたところ出会ったのが、「さいたまヨーロッパ野菜研究会」のメンバーの農家さんでした。そこで、地元のさいたまに戻り 2 年が過ぎた頃、地域の地主さんからウチの畑を使ってくれないかと声をかけられ、これを機に独立。今は露地栽培で様々な種類のイタリアのナスやオクラ、オレンジカリフラワー、ミニ白菜等々を栽培し、この春で 3 年目を迎えます。

組織の一員としてそれなりの年月経験を積んできたけれど、独立して一人で始めてみると、やはりずいぶん違うそうです。なかなか思ったようにはいかない。それに、一人でやっていくにはアスリートと同じくらい体調管理が大事だとつくづく感じたということです。今後は、落葉や野菜くず等の農業残渣を使って自分で堆肥を作り、それを使いこなしていくことで、農薬を使わずに栽培できるやり方にしていきたいと考えています。

2 月下旬に訪ねた畑はまだ植え付け前で、広々とした土の上に春のような暖かな日差しが降りそそいでいるだけでしたが、これからここに芽吹き、育ってくるであろう様々なものの力強い息吹を感じました。

取材：島田由美子
高橋いずみ
文責：高橋いずみ）

右写真　「2020/8」
イタリア丸茄子
ビステッカ

さいたまヨーロッパ野菜研究会・ホームページ
HP:https://saiyoroken.jimdofree.com

飯田さんの野菜は以下でも販売しています。

- ヨロ研カフェ：岩槻区本町 6-1-2
  にぎわい交流館いわつき内（人形会館の隣）
- マルエツ　東門前店（tel 048-687-2255）
  大和田店(tel 048-685-7000)
- ヨークマート　南中野店(tel 048-688-1301)
  ハレノテラス東大宮店(tel 048-686-3122)

見沼たんぼくらぶのイベント案内

その他の自然観察会などでのイベントは年度前半、新型コロナウイルスの蔓延が解消する見込みがないと思われるため、中止せざるを得ない状況です（なお、状況が変わりましら、その時点で、その後のイベント情報をお知らせいたします)。

見沼ふれあい農園づくり

＜　京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培　＞
第３号地（緑区南部領辻三角下）
会員限定・申込制（右欄の下記の発行所宛）・無料
（福祉施設・保育園に寄贈）
＊スタッフが事前に耕し、畝づくりを尾根，植付・除草・収穫等の農作業です。

日程
① ４月２２日（木）８時～種芋植付
② ５月２７日（木）８時～除草
③ ６月１０日（木）８時～除草
④ ６月２４日（木）８時～除草
⑤ ７月０８日（木）８時～除草
⑥ ９月０２日（木）８時～秋の収穫日は後日決めます。

８時　第３号地集合（７時３０分受付）
雨天順延
申込者は第３号地案内図を送付します。

会員の主宰するイベント情報

早起きバードウオッチング
（NPO 法人自然観察さいたまフレンド主催）
５月２日（日）　7 時～8 時 30 分
６月６日（日）　7 時～8 時 30 分
７月４日（日）　7 時～8 時 30 分
毎回、芝川・石橋集合
（さいたま市立大宮体育館下）
申込み：当日、集合地
参加費：無料
コース：芝川・石橋―大和田緑地公園―芝川・境橋―大宮第３公園

見沼たんぼくらぶ会員募集

見沼たんぼクラブへの入会をお勧めします！
見沼たんぼをもっと知りたい
見沼たんぼの自然にふれてみたい
見沼たんぼ保全に協力したい

♦季刊「みぬま通信」を郵送します
♦埼玉県土地水政策課の支援のもとに様々な体験事業を展開します
♦「見沼ふれあい農園づくり」はスタッフが耕し、種蒔きから始める手作業です
♦子ども連れ大歓迎

○　自然観察ハイキング
自然観察指導員のガイドで史跡巡り、野の花や野鳥等を見て歩きます
○　見沼たんぼ清掃ボランティア
○　斜面林の体験学習
○　見沼塾
見沼たんぼの歴史や文化などを学ぶ学習講座

年会費　　１口　￥１，０００円
個人（同居の家族単位）１口以上
企業・団体　３口以上

会員皆様の寄稿を歓迎します！
見沼田んぼ地域に関わることなんでもOK
原則Ａ４版１ページ
問い合わせ：見沼たんぼくらぶ事務局

みぬま通信第８６号

発行日　　令和３年月４月１日
発行所　　見沼たんぼくらぶ
〒３３０－００７４　さいたま市浦和区北浦和 5-15-39-310　三上方
TEL　　０９０－４８１１－５９９６
E-mail　　masaismiyabi@coda.ocn.ne.jp
ＵＲＬ　http://minumatanbo.web.fc2.com/

© 2021　Minuma　Tuusin